

情報科と英語科の連携授業－英語によるプレゼンテーション作成・発表－

1. 概要

英語科と情報科による、週2時間の協同授業である。パワーポイントを使用したプレゼンテーションスキルの獲得を主な目的とし、設定した題に関して英語で要点をまとめ発表を行った。また、ここで得たスキルを用いて、グループ発表を英語で行った。

2. 仮説

様々なトピックに関して、限られた時間の中で調べたことを伝える効果的な方法を考えることで、プレゼンテーション能力及び論理的思考能力も同時に身に付けることができる。さらに、これらを英語で行うことで、併せて語学力も磨くことができる。

3. 経緯と状況

- ・PowerPoint®の利用の仕方(タブレット操作・Office365®の利用方法)
- ・テーマ設定
- ・発表(英語)および相互評価
- ・原稿、スライド作成および英語科教員による原稿チェック
- ・振り返り

4. 事業の内容

実施時間：週2時間(通年)

参加人数：国際探求学科1年40名、SR科1年40名

5. 事業の効果とその評価

【多様な視点で見る力】あるテーマについて、多様な視点から見るができる

【課題設定する力】与えられたテーマから問題点を検討し、課題を設定することができる

【深く洞察し解決する力】設定した課題を深く洞察し、解決策を検討することができる

【協働で参画する力】グループで協働して、一つのプロジェクトを完成させることができる

留学生交流会

1. 概要

グローバルな視野を身につけるための効果的なプログラムとして、国際探求学科生徒とSR科生徒が留学生と交流し、留学生の研究内容についての話を聞いた。国際社会で活躍するために必要な資質や技能の必要性を学ぶことができた。

2. 仮説

- ① 留学生から研究内容や出身国についてのプレゼンテーションを聞き、日本との関係について考えることで、グローバルな視野をみにつけ、課題研究に対する考えを深めることができる。
- ② 学科合同で交流会を実施することで、お互いに学び合う機会とし、学校の国際教育推進の機会を持つことができる。

3. 経緯と状況

11月 実施 2月評価(アンケート実施)

4. 事業の内容

実施日時 令和6年11月12日(火) 6～7限(14時20分～16時10分)

参加人数 1年 国際探求学科39名、SR科38名

留学生出身国：エジプト、バングラデシュ、リビア、コートジボワール、モロッコ、中国、ブラジル、キプロス、ギニアから9名

事前指導：各国について調べ、留学生への質問を考える。7～8名に班分け。

5. 事業の効果とその評価

国際探求学科、SR科からなる7～8名の合同班に1人ずつ留学生を迎えて交流し、留学生の研究分野についての話を聞いた。また、各国の情勢や文化を知るだけでなく、自分たちとは異なる考え方や見方を知り、海外と比較することで改めて日本について考える機会となった。

3年 理数探究実践

1. 概要

「英語を使って科学を学ぶ」態度や意欲の育成を行う。そのため、英語科教員1名、理科科教員1名、理系分野を専門とするALT3名の計5名で授業を行う。特に、コミュニケーションを図る機会を多く持たせ、英語を用いて科学探究に取り組む。

2. 仮説

- ① 2年次から取り組んできた課題研究の内容を英語で発表する過程の中で、考察・議論・再考を重ね、研究をより深めることができる。
- ② 英語で発表し、お互いに質問しあうことで、表現力、コミュニケーション能力を身につけることができる。
- ③ 英語で説明される講義や化学実験に主体的に参加することで、科学を英語で理解する機会を多く持つ。授業内容が理解できることで、英語や科学への学習意欲をさらに高めることができる。
- ④ グループで実験を行うことを通じて、仲間と議論を重ね、論理的思考力と実践力を養うことができる。



3. 経緯と状況

学期	課題	活動内容
1学期	課題研究のAbstract作成	13のテーマに分かれ、それぞれのグループが協同し、英語による課題研究の要約を作成した。
	ポスター作成と発表	校内発表に向けて、英語のポスター作成し、発表原稿(英文)の推敲、まとめを行った。
2学期 3学期	Science Lecture Lab Activity	ALTの協力を得て、英語を使って様々な講義や実験を行った。講義や実験後に、All Englishの小テストを行い、講義内容や実験結果を英語でまとめる機会を多く持ち、実践力を養った。
	Experiment	Egg Drop 実験をグループで行い、仮説・実験・検証を行った。

4. 事業の内容

- (1) 2年次に1年間かけて取り組んできた課題研究の内容を、英語で深め、発表する。13グループのそれぞれが、研究内容のAbstractを作成した。ALTの助言をもとに、Abstractをさらに推敲し、関連する英単語リストを作成し、さらに英語でプレゼンテーションする際に必要になる表現を学び、口頭・筆記テストを行った。また、課題研究の英語発表、質疑応答の練習を行った。理数探究実践の授業内で、全グループが発表を行い、選ばれた3班が神戸大学で開催された10th Science Conference in Hyogoに参加し、好評を得た。
- (2) 英語で様々なLab Activityに取り組んだ。内容はExploring Chemistry, Climate Change, Extracting Strawberry DNA, The World of pHなどである。講義内容を英語でメモしたり、実験結果を予測し、実験を通して、その結果を英語でまとめ、考察した。ALTによる英語での説明を通して科学的な内容を学ぶ絶好の機会となった。毎回実験の振り返り記述テストが英語で行われた。

5. 事業の効果とその評価

【協働で参画する力】研修・実習において、議論を通してチームと協同することがすこしできる・できる生徒は、授業を受ける前は42.1%だったのに対して、授業を受けた後は89.5%に増加した。

【課題設定する力】自分なりの仮説を立て検証方法を考えることができるかという質問に、すこしできる・できると答えた生徒は授業を受ける前は50.0%だったが、授業を受けた後は94.7%であった。

【深く洞察し、解決する力】英語で行われる研修・実習について、理解できる・すこし理解できると答えた生徒は、授業を受ける前は47.4%だったが、授業を受けた後は、100%となった。このことから、英語で行われる授業に対する理解が大きく深まったことが確認できた。

【多様な視点で見る力】研修・実習についての意図や背景を幅広く理解できる・すこしできると答えた生徒は、授業を受ける前は44.7%だったが、授業を受けた後は94.7%となり、顕著に増加した。